

単語の再認記憶に閉眼が与える影響

内山, 朋美

<https://doi.org/10.15017/4059969>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (心理学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名	内山 朋美					
論 文 名	単語の再認記憶に閉眼が与える影響					
論文調査委員	主 査	九州大学		准教授	光藤	宏行
	副 査	九州大学		教授	中村	知靖
	副 査	九州大学		講師	山本	健太郎
	副 査	九州大学基幹教育院		准教授	岡本	剛

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文では、再生記憶成績を向上させるものとして注目されている目を閉じるという動作（閉眼）が、再認記憶を向上させるかを検討した2つの認知心理学実験を報告している。第1章では、閉眼が記憶成績を向上させるかを検討した先行研究を詳細にレビューし、関連する認知処理を紹介し、先行研究からは明らかになっていない点を指摘した。第2章では、先行研究で検討がなされていなかった無関連単語リストを用いた再認課題を行い、閉眼によって記憶成績が向上するかを検討した。その結果、閉眼は記憶成績を向上させないという頑健な知見を得た。第3章では総合考察を行い、閉眼が本研究でなぜ再認記憶を向上させなかったのかを考察し、関連する認知処理過程について考察を行い、応用的側面から考察を行った。

以上のように本論文は、閉眼が再認記憶を促進するかについての詳細な実験的検討を行い、否定的な結論を得た要因を考察するとともに長期記憶の処理過程について考察を深めたことから、優れた研究であると言える。よって、本論文は博士（心理学）の学位に値するものと認める。